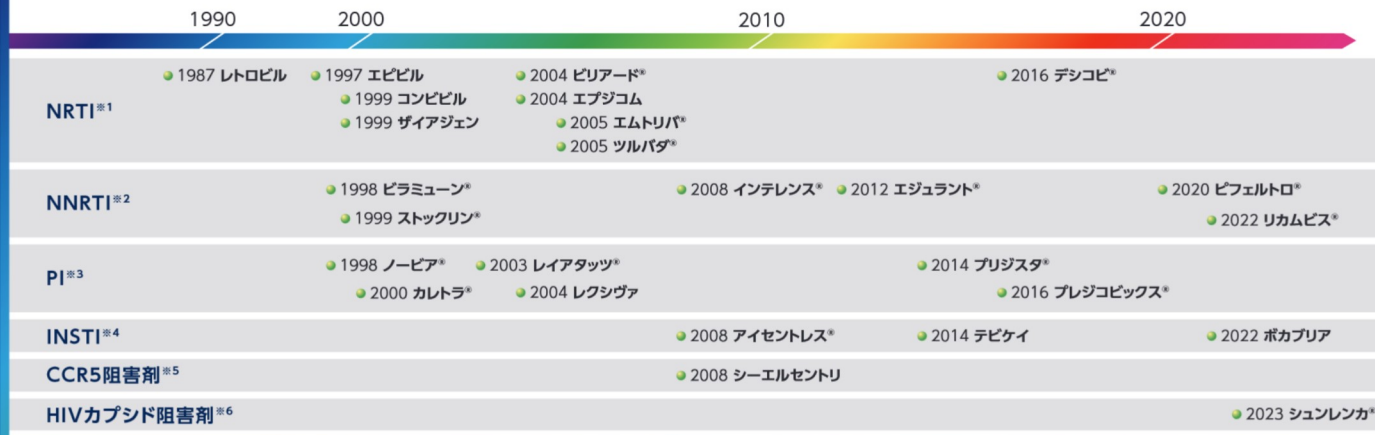


# HIVとともに生きる方へ 処方されているお薬を確認してみましょう

抗HIV治療は、複数の薬剤を組み合わせた治療が主流となっています。  
1999年に複数の薬剤を1錠にまとめた配合錠が登場し、現在は1日1回1錠での治療が推奨されています<sup>1)</sup>。

## 抗HIV薬 年表



## 1日1回1錠の配合錠

- 2015 トリーメク ● 2019 ビクタルビ\*
- 2016 ダンボイヤ\* ● 2019 シムツーザ\*
- 2018 ジャルカ
- 2018 オデフシ\*
- 2020 ドウペイト

販売中止品を一部含む

- ※1：核酸系逆転写酵素阻害剤。ウイルスの遺伝子を逆転写してDNAをつくるのに用いられる酵素の活性を阻害します
- ※2：非核酸系逆転写酵素阻害剤。NRTIとは異なる構造を持ち、ウイルスの遺伝子を逆転写してDNAをつくるのに用いられる酵素の活性を阻害します
- ※3：プロテアーゼ阻害剤。増殖したウイルスが成熟するために必要な、タンパク質の切断に用いられる酵素の活性を阻害します

- ※4：インテグラーゼ阻害剤。ウイルスのDNAがヒトのDNAに組み込まれるのに用いられる酵素の活性を阻害します
- ※5：侵入阻害剤。ウイルスがヒトの細胞に侵入するのを阻害します
- ※6：ウイルスの増殖にかかわるカプシドタンパクの機能を阻害します

文献1、2)より作成

1) 令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業 HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究班: 抗HIV治療ガイドライン, 2023年3月  
2) シュンレンカ錠300mg 電子添文 2023年8月作成 (第1版), シュンレンカ\*皮下注463.5mg 電子添文 2023年8月作成 (第1版)